

ICT 介護 「眠り SCAN」の活用による業務改善

介護医療院みのりでは、令和3年12月の開設に併せて、職員の身体的・精神的負担を軽減するとともに、よりきめ細かなケアを実現するため、パラマウントベッドの見守り支援システム「眠り SCAN」を全室に導入し、その効果の検証を行ってきました。

■ 眠り SCAN とは…



リアルタイムモニター



マットレスの下に設置するセンサーで、体動(寝返り、呼吸、心拍など)、睡眠状態を測定し、リアルタイムでパソコンや携帯端末に、情報が通知されます。スタッフが持ち歩くスマホにも、モニター画面と同じ表示、通知がされるため、状態を常時確認することができます。

眠り SCAN 導入後6ヶ月が経過し、夜勤業務の検証結果は、次のとおりでした。

■ 導入前の課題

○ 職員アンケート ・ ヒヤリング結果



転倒、転落などの不安、体調の急変への不安、看取り期の状態把握など、精神的負担が大きい… 夜勤に入るのがこわい…



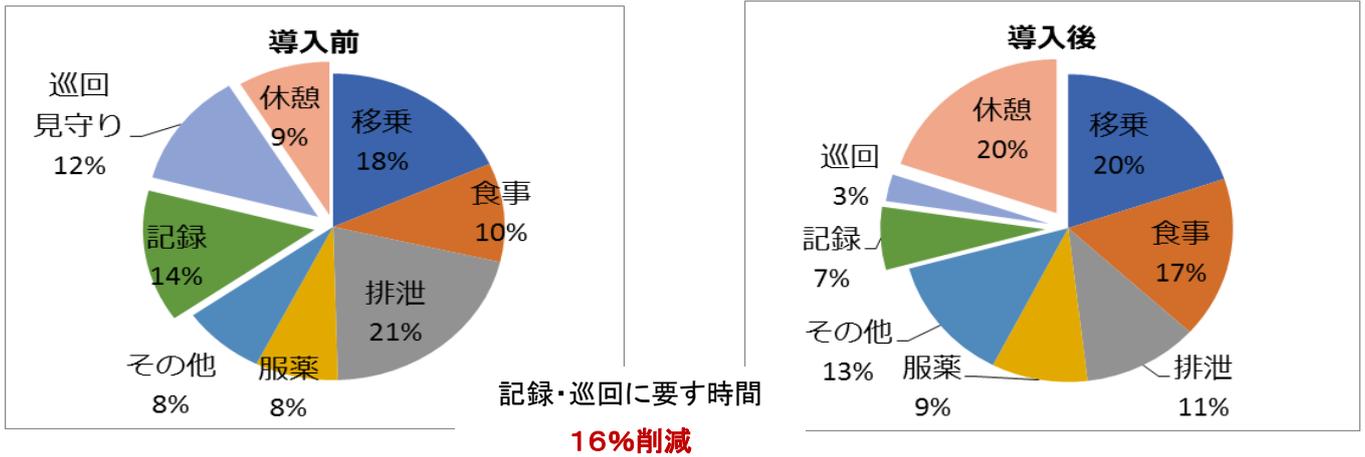
ナースコールがどこでなっているかのかわかりにくい…
床に設置したセンサーを職員が誤って踏んでしまい、不必要な訪室が多い…
センサースイッチの入れ忘れによる事故発生がある…



記録や巡回、コール・センサーの連鎖で、まとまった休憩がとれず、身体的負担が大きい
ゆっくりと入所者に関わる時間がとれない、気持ちの余裕がほしい…

○ 業務時間調査結果 記録、巡回・見守りに要する時間が**全体の26%**を占めていた

■ 効果



定量的評価	導入前	導入後
①巡視方法	1回の訪室・巡回時間 約10分×平均12回＝約120分 ・センサー空振り＝平均4回	・PC画面でのモニター確認＝0.5分 ・1回の訪室 約5分×平均7回＝35分 ・センサー空振り＝0回 (効果) 約1時間15分の短縮 ができた
②深夜の休憩時間	・規定では2時間だが、断続的な休憩が1～1.5時間程度だった	(効果) 2時間通しの休憩 が確実にできるようになった
③記録時間の短縮	PC前にいる時間＝約160分	記録時間＝平均70分 (効果) 1時間30分の短縮



随時モニターで入所者の状況が把握できるので、安心感がある。夜勤に入るこわさがへった。



不安から、何度も訪室することがなくなった。またセンサーの空振りがなくなり、不必要な動きが減った。ゆっくりと身体を休ませることができるので、気持ちにもゆとりがもてるようになった。



眠りSCANで覚醒したタイミングがわかるので、適切なタイミングで排泄介助ができるようになった、排泄の失敗も減った。

このように、導入後は、すべての業務にかかる時間が短縮、休憩時間も確保できるようになり、職員の負担軽減に効果がありました。

また、日々のデータの蓄積により、入所者様の生活リズムや体調変化の把握が可能となり、きめ細やかな介護を行なえるようになってきました。

今後も、このシステムを活用し、入所者様のより良い日常生活に繋げていきたいと思っております。